

和漢胡錄集

上





和漢朗詠集卷上

春

立春 早春 喜興 喜報 子日 村 暮 菜
 三月三日 竹 枕 花 暮 暮 三月 之 宜 三月
 鶯 暮 暮 子 梅 甘 紅 柳 花 暮 暮
 鄭 蜀 秋 夕 燕

夏

更衣 首夏 夜 脫 瑞 午 網 涼 晚 衣
 包 榻 暮 暮 暮 暮 暮 暮

殊

立秋 早秋 七夕 秋興 秋晚 始秋

八月十六 初月 九月 九月廿二 九月廿三

九月廿三 九月廿四 九月廿五 九月廿六

九月廿七 九月廿八 九月廿九 九月三十

考

初冬 冬初 冬末 冬大 霜雪

水竹 青竹 夏 佛名

春

立春

迎春 燕尾 不待 黃龍之 傑 迎春 為 俊 公 東 德

將 希 子 為 想 池 凍 東 頭 風 度 氣 初 寒 物 中 面 雪 封 寒 篤 茂

柳 無 氣 力 條 先 動 沈 子 波 文 亦 有 字 白 居 易

今日 不知 誰 身 含 春 氣 春 水 一 時 來

敢 向 誰 更 乞 春 春 氣 春 風 春 水 一 時 來 良 春 通

也 一 的 的 也 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜 喜

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 元 方

神 聖 也 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 貫 之

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 貫 之

まふとのまをこりめやみより
山のくまをくまをいんゆらん
志奉

早春

水消田地若波復去入枝凍移眼低元植
先志を風振消息發滋時有夜來雪白
東孝知春病速速不同南枝の枝保
之梅子花のこま

紫苔飛嶺人卷の玉を雪に波後紫野相公
氣霧風振軟粉髮水消波洗而若髪
在坊のまを清少源林愛者輝名を紀納言
いとそくたるのうへにさけいひの
とくそいつるまをみれはさるるなり
志貫子

山つなをこりめやみより
うちいつるまをみれはさるるなり
正澄
見りてまをみれはさるるなり
とくそいつるまをみれはさるるなり
平兼盛

春無

花下長将因系系楊柳勃發是春風日
野系若葉紅地松綠のたけまを劉禹錫
影のたけを花をまをまをまをまをまを
少松枝を花をまをまをまをまをまを
若柳風を花をまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまを
林中を花をまをまをまをまをまを
田達音

月永上

わんわんハワつねつとまじかじさうの
 河このもろくハなまやかくゆる人丸
 わんわんハワつねつとまじかじさうの
 赤人
 貫之
 二月三日付枕花
 春來遍是枕花のふりかぶる仙原何形路玉維
 喜く多月くし三行を眺みお枕花の昔
 し巻やあ辰一日く清美様と抱必
 む段をきき華段後出巴字の如地巻
 思純文の叙風流益志しく正しく流

枕花序云尔
 煙霧遠近應門戸極楽海深仙勅老管丞相
 有成巴字初之日你起周子後我寂葛茂
 徹石運來心竊得索流道色中先透雅規
 和子徐溪首波之眼彩嬌晚風後吹紀納言
 而云々唐先誤
 みるるとをよたのてりあ枕のこやうじり
 ちねくまよあひにらるうな 躬恒
 善也云云
 柳水初色子百黙陽橋香の香由三亭元鎮
 但翔沙鷗游為院秋綠野の孝深去管丞相
 人世更少時次橋のふりま酒まじり小野篁

明永正

割白為想^二々々好^三意^四云^五此^六不^七而^八云^九何^十源^{十一}順
のこつう^{十二}子^{十三}を^{十四}今^{十五}月^{十六}々^{十七}ハ^{十八}杞^{十九}ほ^{二十}く^{二十一}れ^{二十二}と
を^{二十三}れ^{二十四}ん^{二十五}く^{二十六}く^{二十七}は^{二十八}喜^{二十九}を^{三十}を^{三十一}く^{三十二}あ^{三十三}れ^{三十四} 興風

三月五

為^一ま^二く^三不^四短^五春^六病^七人^八無^九言^十狀^{十一}風^{十二}く^{十三}白
あ^{十四}る^{十五}風^{十六}起^{十七}を^{十八}蕭^{十九}索
休^{二十}院^{二十一}君^{二十二}宗^{二十三}消^{二十四}邪^{二十五}な^{二十六}も^{二十七}多^{二十八}秋^{二十九}送^{三十}春^{三十一}白
惆^{三十二}悵^{三十三}春^{三十四}病^{三十五}為^{三十六}あ^{三十七}ら^{三十八}紫^{三十九}藤^{四十}を^{四十一}下^{四十二}御^{四十三}養^{四十四}白
是^{四十五}春^{四十六}不^{四十七}用^{四十八}勅^{四十九}あ^{五十}ら^{五十一}唯^{五十二}あ^{五十三}は^{五十四}言^{五十五}を^{五十六}管^{五十七}丞^{五十八}相
あ^{五十九}ら^{六十}龍^{六十一}克^{六十二}知^{六十三}あ^{六十四}ら^{六十五}志^{六十六}と^{六十七}春^{六十八}旅^{六十九}名^{七十}を^{七十一}あ^{七十二}ら^{七十三}あ^{七十四}菅
あ^{七十五}ら^{七十六}ま^{七十七}あ^{七十八}ら^{七十九}圓^{八十}を^{八十一}あ^{八十二}ら^{八十三}あ^{八十四}ら^{八十五}鳥^{八十六}會^{八十七}尊^{八十八}敬

ふ^一の^二と^三は^四ら^五せ^六せ^七の^八奴^九と^十終^{十一}て^{十二}中^{十三}の
あ^{十四}ら^{十五}の^{十六}と^{十七}や^{十八}せ^{十九}れ^{二十}を^{二十一}れ^{二十二}の^{二十三}け^{二十四}け^{二十五}り^{二十六}れ^{二十七} 躬恒
を^{二十八}れ^{二十九}ゆ^{三十}れ^{三十一}あ^{三十二}ら^{三十三}あ^{三十四}ら^{三十五}中^{三十六}と^{三十七}ハ^{三十八}せ^{三十九}く^{四十}ま^{四十一}の
あ^{四十二}ら^{四十三}さ^{四十四}と^{四十五}と^{四十六}こ^{四十七}を^{四十八}な^{四十九}り^{五十}ぬ^{五十一}ら^{五十二}あ^{五十三}れ^{五十四} 貫之
あ^{五十五}ら^{五十六}こ^{五十七}ゆ^{五十八}む^{五十九}と^{六十}れ^{六十一}を^{六十二}と^{六十三}あ^{六十四}ら^{六十五}と^{六十六}た^{六十七}の^{六十八}あ^{六十九}れ^{七十}ぬ
あ^{七十一}ら^{七十二}あ^{七十三}ら^{七十四}ハ^{七十五}杞^{七十六}く^{七十七}ま^{七十八}ら^{七十九}ら^{八十} 全

宣二月

今^一の^二宣^三在^四ま^五三月^六割^七兄^八金^九後^十一^{十一}月^{十二}也^{十三} 陸侍郎
帰^{十四}路^{十五}の^{十六}為^{十七}更^{十八}進^{十九}為^{二十}於^{二十一}路^{二十二}を^{二十三}く^{二十四}路^{二十五} 源順
祥^{二十六}々^{二十七}舞^{二十八}降^{二十九}を^{三十}翻^{三十一}翻^{三十二}お^{三十三}一^{三十四}月^{三十五}も^{三十六}も^{三十七}
花^{三十八}梅^{三十九}の^{四十}根^{四十一}を^{四十二}差^{四十三}梅^{四十四}を^{四十五}給^{四十六}入^{四十七}家^{四十八}を^{四十九}記^{五十} 滋藤

月林上

さくらのはれちるらんねるとしこやも
人のさるり子ありまじやハきぬ
伊勢

雪

鶺鴒鳴志良詩且言未出是之賢也若 賈島
誰家松樹鳴啼白死葉一從金或知謝觀
兼君之夢光る跡はる未也
咽房山言啼鳥の言初言言多事後分元 稹
卷以之國言以言多而意無風洗泥白
言多言後引事也下言多之拘多言也言全
或同於於お求難能也言多之在言言言言
去言言言言言言言言言言言言言言言
豈暇之種誓収種種元於言言言言言全

周新之藝於勅殿間屏於彩花

新彩如今穿宿雪而葉為得余言言言言言言言言

西樓月落也言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

あう言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

白

菅丞相

素性

麗景殿

女卿

中勢

白

菅丞相

月水二

きのみそとく 八ふけうはつこのん
このんはゆよをやこふまたり
きうはつこをやいつこえの
よりこのんをうらふなりつ
あふひはまをひのまをむく
ちうのこのんをむくあひまにり

兼盛
赤人
人丸

或新花下潜増 葉子之出時舞 贊江以言
有暗 勅潘舟之思
もあはれおもしろき沈沈初をこり舟の
花彩の中初効にまわす時為多院
菅三呂

李嬌
紀納言
菅三呂

斜勢 隆風 先着 憂情 終日 東海 宿保 胤
さうらうありふはありきぬおちりく
ぬるともをみぬのけよかくまひ
あやせぬのえこよりけりまをうめは
いともしぬりうたよりうとをそみる

伊勢
美人

梅甘 白梅
白片 爲物 浮湖 水黄 稍新 物以 味情 場
梅花 常色 飛花 之柳 色和 煙入 酒中
湖菡 猶記 初封 程信 定喜 風去 有先 植御 製
若絲 露出 陶の 粉白 玉裝 束度 殿物 徒江 相公
西原 養々 之 性 然 但 情 大 慶 万 樽 梅 菅 三 呂
班云 喜之 其 在 公 院 暖 南 枝 七 始 耳

白居易
章孝標
植御製
徒江相公
菅三呂

何と行らるるへー口ウヤセの
暮廣庭

こうこのむめらむと死まらう
赤入

けうまこよんそんとおひらうもの
躬恒

それともみまに雪のあけす
元稹

うせと先くこれおうまらんうあは
橘正通

あやれーうまこさあわくーを
兼明

紅梅
前中春王

梅含露長表氣に昇霞を茅瑟又
紀齊名

沙紅鮮嫩仙方う露凝を漢馬都
花山院

妓燈を衣讓業
友則

有之易字跡を空無情能翁父陽中
花山院

仙洞風生う教電世燈を霞赤揚強
花山院

長あそくそれあうみを愛むめのを
花山院

とせもう然もー人そーる
花山院

多うをいおひもいと梅のむ
花山院

つひあぬあよまそくそら
花山院

暮廣庭

赤入

躬恒

元稹

橘正通

兼明

前中春王

紀齊名

花山院

友則

花山院

花山院

花山院

花山院

花山院

花山院

密宅迎晴卷月臨陸地
 深心月夜更枝桂岩口
 風來浪濤驚 菅三品
 あとやきのいよありう
 へんこくくもれハ石
 ばつられハあつめや
 いやうららあふより
 あとやきのまゆら
 春のららあそき
 兼補

花

花
 花明上苑迎彩苑
 山斜月影る着る
 池之清く藍波水
 長讀

花見入都む役入
 菅白帝風之低
 波浪表程一入
 誰謂之無心
 也子後收深激
 那得之水別深
 謂之也心留人
 賦身何係唯
 也形也深
 始識之
 眼矣易那裁
 源相規

世中又あはくさくらのあかりをば
業平

つらゆらゆらなをえさくさくさく人
躬恒

てこころあはくさくさくさくさく
素性

為るあはくさくさくさくさくさく
白

朝露はあはくさくさくさくさく
全

後江指
全

鏡湖風翔は松葉下梅は桂影は院菅三品

貫之

公忠

脚躑

平貞文

清慎公

馬長

書意を以て相収括候多変文未詳あり
保胤

わさやとらんゆりたのそね
原見玉

ちのらゝかむちるねここえよ
善盛

性望意忠を心や以て多岐多事
白居易

中事有傳身事多き意を以てえん意若順
順

はるる意忠を心や以て多岐多事
源相規

ととハあつたりのあてよあやあくの
貫之

夏

更衣

夏衣候衣候衣箱衣箱衣箱
白

夏衣候衣候衣箱衣箱衣箱
菅

衣候衣候衣箱衣箱衣箱
重之

首衣

夏衣候衣候衣箱衣箱衣箱
白

夏衣候衣候衣箱衣箱衣箱
物安興

跡見彩鳥の跡行吹た葉納涼の管
池冷水女三伏夏移る風を一つ多々
源央明

あつらひをよめらるるをよめらるるを
あつらひをよめらるるをよめらるるを
貫之

あつらひをよめらるるをよめらるるを
あつらひをよめらるるをよめらるるを
中務

あつらひをよめらるるをよめらるるを
あつらひをよめらるるをよめらるるを
惠慶

晩夏

あつらひをよめらるるをよめらるるを
あつらひをよめらるるをよめらるるを
中務

あつらひをよめらるるをよめらるるを
あつらひをよめらるるをよめらるるを
春宮

お梅

あつらひをよめらるるをよめらるるを
あつらひをよめらるるをよめらるるを
白
後中登
伊勢

あつらひをよめらるるをよめらるるを
あつらひをよめらるるをよめらるるを
貫之

き

あつらひをよめらるるをよめらるるを
あつらひをよめらるるをよめらるるを
白
全
許
渾
紀
在
昌

相承上

十四

孫何文克吳中世仗是也志存不亡延喜御製
政の志同弘為眼むぬれ申一純長根一源為憲
たしとるまのゆかりよきぬるあましく
あつたつゆとむとあつたむく

郭云

良僧正

つれ山も雲中万無なる雲林寺中 許渾

さつれ中も松ありあつたよ中とまきん
あつたるゝ志のいともさるげさし 明日香寺

あつたるゝ志のいともさるげさし
あつたるゝ志のいともさるげさし 公忠

あつたるゝ志のいともさるげさし
あつたるゝ志のいともさるげさし 忠見

巖

若火乳を秋らとを志するも後初長元復

重慶水晴る如松松松風も存と初許渾
月く切を浪遠月光於をと皓く 紀納言

あつたるゝ志のいともさるげさし
あつたるゝ志のいともさるげさし 橘直幹

あつたるゝ志のいともさるげさし
あつたるゝ志のいともさるげさし 赤人

あつたるゝ志のいともさるげさし
あつたるゝ志のいともさるげさし

あつたるゝ志のいともさるげさし
あつたるゝ志のいともさるげさし 白

明永上

十五

十月秋風 山蟬鳴 弓矢樹如

子弓の 幽會 梅西の月 蟬鳴 是 李嘉祐

鳥下 楓葉 素葉 秋蟬 鳴 許 渾

今年 爽冽 獨 步 涼 蟬 鳴 許 渾

歲去 繁華 殊 寂 寂 秋 蟬 鳴 許 渾

多 也 之 的 此 也 秋 蟬 鳴 許 渾

今 年 爽 冽 獨 步 涼 蟬 鳴 許 渾

歲 去 繁 華 殊 寂 寂 秋 蟬 鳴 許 渾

多 也 之 的 此 也 秋 蟬 鳴 許 渾

今 年 爽 冽 獨 步 涼 蟬 鳴 許 渾

歲 去 繁 華 殊 寂 寂 秋 蟬 鳴 許 渾

多 也 之 的 此 也 秋 蟬 鳴 許 渾

今 年 爽 冽 獨 步 涼 蟬 鳴 許 渾

感 憂 秋 風 入 幕 中 秋 蟬 鳴 許 渾

有

人丸

白

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

風 吹 滿 庭 初 冷 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

秋

立 好

蕭 風 凌 風 日 暮 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

蕭 風 凌 風 日 暮 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

蕭 風 凌 風 日 暮 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

蕭 風 凌 風 日 暮 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

蕭 風 凌 風 日 暮 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

蕭 風 凌 風 日 暮 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

蕭 風 凌 風 日 暮 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

蕭 風 凌 風 日 暮 蟬 鳴 秋 蟬 鳴 許 渾

月 秋 蟬 鳴

白

保 胤

あゝぬとゆふにささづきうはらふらんさし
うきのもをふとくはうらうきあはる
敏行

うけつあはよのそけきこのそあはる
あゝはらうあをうりかこあひえ
能宣

早秋
但秋異境と伏吉不知秋是三毛末
極むる異秋也楓葉風涼秋景
紀家

あはらうくううあゝとこのひのひ
あゝあまのうきをたれとさむい
安貴王

七夕
信坊が年長と竹竿以と乳添ぬ白

二平とまをさき叙の然依くゝ病五巻 小野景村

あゝ秋の望遠の心ゆくゝあゝ
あゝ別後遠くあまを流るる衰
菅

あゝ安浪あは後ゆ流後流月を満
菅三郎

あゝ秋の波流るるあゝあゝ
あゝ秋の波流るるあゝあゝ
菅輔昭

あゝ秋の波流るるあゝあゝ
あゝ秋の波流るるあゝあゝ
菅公

あゝ秋の波流るるあゝあゝ
あゝ秋の波流るるあゝあゝ
人丸

あゝ秋の波流るるあゝあゝ
あゝ秋の波流るるあゝあゝ
貫之
躬恒

好色

林間暖酒煙香素
 思時鹿角酒香素
 大庵の内の思長
 物之自場傷客
 中身思思立秋
 第一侍心何事
 昌景御三流も味
 うらみあくい
 杞り人こも
 わさくらあやめ
 けさのうら
 白
 白
 女
 野相公
 田建音
 丹後國人
 美壽將

秋思

相思夕と松卷立
 望月粒粒秋
 さくらもまめ
 わのうら
 貫之

好色

好色長く女
 望月粒粒秋
 さくらもまめ
 わのうら
 貫之

月夜

六

あつらひのふりくしの尾乃あつらひの
ありくしのふりくしの尾乃あつらひの 人丸
むつらひのふりくしの尾乃あつらひの
あつらひのふりくしの尾乃あつらひの 躬恒

月十五廿月

秦旬一子母と産む 此海流の公来意
二十の島に於て

御辨持中三島相思のま指我望之今
縁流の島に
三つの中の新月二つの中の人白
十二の中、女猪かけ夕つ好子を紀納言

かた幸に吾等光
碧浪金波三つ初枝凡計云此等高菅澤度
自教者系源高宗人海をも色の日好
岩白を逢招る源融の算原中表
塩次は是れ高が法明玉不出
金一高の島に運三更に源に菅三品
初を此傳る高宗中人を源に信源順
あつらひのふりくしの尾乃あつらひの 順

月

誰人既外久征戎何意高射分報白
好も此来影を速影も快き月乃延野展

不解... 月... 西... 白
 ... 珠... 理... 平
 ... 保... 鹿
 ... 仲... 營
 ... 朝... 恒
 ... 華... 登
 ... 皇... 甫... 再

九月廿業

採... 紀... 納... 言
 ... 元... 輔
 ... 元... 鎮

月夜形多并和梅之故調秋意も福紀納言
竹葉多ふしを夜

郡跡村岡多経登田家兒子不意きと三善清母
京苑自然の物多精敏之信之きしと保胤
蘭堂多美片提紫好き事也月也中菅三品

あふあふくまおしりやあしんくあしあ
きききききききききききききききき
躬恒

いとくこの事おういあくききききき
あきあきほくくあきあきくれる
敏行

九月廿九

流山清岳為園部多者登於東潤 順
流と多者多ら近何色美新の風境

頰目流江孫表乞以秋詠をき登録全
文書事潔白物束詞海様おのり美書以言
山とけりあはれもくまねとほくくも
あきこの事おしりやあしんくあしあ
くまねとほくくわねのくまねとほくく
こまねとほくくの事あしんくあしんく
兼成

わさむ

花多の事おしりやあしんくあしんくあしあ
野火の事おしりやあしんくあしんくあしあ
あきこの事おしりやあしんくあしんくあしあ
あきこの事おしりやあしんくあしんくあしあ
良材

月夜

とまへし〜みよはうあはく〜さく
いとむし〜はあ〜さく〜さく
清眞

秋

曉霧のさびしき夜を百段琴の〜
木の葉のちとさく〜
おろも〜
うら〜
おれ〜
あ〜
し〜
元浦

あは〜
素

扶桑昔昔影字海や〜
暁の霞女影影海仙教人眼泣珠都良香
あ〜
素性

檀

杉樹子奉終是朽檀を〜
ま〜
檀衆〜
道信

あさうやとあやとあはれとあはれらん
人をもあやとあはれとあはれらん 全

世三

多栽

多日栽花收同情之時 形数法家施 菅三品
自其 宇摩 宗任 侍去 樹多栽 好秋 全
雨思看 池花 如白 西是 由去 藝 白時 保 胤
昔允 種多 思元 亮為 是也 時 世 多 菅
ちり せり 多 支し とも 兼多 行 たり
つり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ
ちり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ
とく ぬり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ

紅糸 甘 為 染

射 恒

多日栽花收同情之時 形数法家施 菅三品
自其 宇摩 宗任 侍去 樹多栽 好秋 全
雨思看 池花 如白 西是 由去 藝 白時 保 胤
昔允 種多 思元 亮為 是也 時 世 多 菅
ちり せり 多 支し とも 兼多 行 たり
つり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ
ちり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ
とく ぬり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ

清正

貫之

多日栽花收同情之時 形数法家施 菅三品
自其 宇摩 宗任 侍去 樹多栽 好秋 全
雨思看 池花 如白 西是 由去 藝 白時 保 胤
昔允 種多 思元 亮為 是也 時 世 多 菅
ちり せり 多 支し とも 兼多 行 たり
つり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ
ちり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ
とく ぬり たり ぬり とも 多 何 の とも ぬ

清正

貫之

張 讀

白

城柳を花後推為枯木
梧桐の中一葉の白
数斤の紅纒糸
高相如

後托及臨高
後平登

人丸
貫之

るる人もあくくちりぬるわくやりの
ゆらららるるのあきさありらるる 全

在付帰宿

万里人南去三春
白

月夜台河同宿

月夜台河同宿
杜荀鶴
後江相公
田連音
菅三品
後平登

あはれもよまのりかゝるもなほあはれ
まことたるしとささけけりしらん

友則

伊勢

山崎師馬判書等水面彩如赤衣中
まゝもまゝえんことをまゝとてけりや
まはれまゝにけりまゝもまゝやあはれ

伊勢

出

切く晴多下雪と海子裏秋を思ゆ
心は悲人耳

白

霜多於秋と思昔風枝未定を極歌
床終終柳巷を常盤歌を心氣孔穿
山嶺は時鳴自落也まゝ風を又感程を直轄

白

野相公

業多を思ふ風や晴盤夜山也月を思順
いゝとんとまゝれよのあはれん秋のまゝを

作者欠

あはれもよまのりかゝるもなほあはれ
まゝもまゝえんことをまゝとてけりや
まはれまゝにけりまゝもまゝやあはれ

素性

出

春若ぬ清信の思ふおぼろ乾きも
晴も天食草乃之をまゝ又他にまゝは風
まゝもまゝえんことをまゝとてけりや
まはれまゝにけりまゝもまゝやあはれ

温庭筠

紀納言

能宣

貫之

一宿の九月 初と松を以て其味 月似ら白
露馬若草花を以て白 街松を以て雅 華法 源英明
ささりくはあさき川とありあはれちとこ
らあさきとくさきとありあはれちとこ

秋勢

竹露曉花 野風月 露風曉 是は白
雅然 夕露 埋入 枕 松 中 露 中 出 露 物 後江相
秋勢の夕露とて 中 露 中 出 露 物
中 露 中 出 露 物
ささりくはあさき川とありあはれちとこ
らあさきとくさきとありあはれちとこ

掛紙

八月の月 山を報ふ 竹露 露 中 出 露 物 白

惟象の影 秋掃 露 中 出 露 物 白
竹露 曉花 野風 月 露 風 曉 是 白
雅然 夕露 埋入 枕 松 中 露 中 出 露 物
秋勢の夕露とて 中 露 中 出 露 物
中 露 中 出 露 物
ささりくはあさき川とありあはれちとこ
らあさきとくさきとありあはれちとこ

中

初也

十月 山を報ふ 竹露 露 中 出 露 物 白
口時 冬 露 中 出 露 物 白

初上

鹿と出以収ち糸帯道中帯と云糸帯衣菅三品
 神衣の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 貫之

一帯を焚く糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 貫之

糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 良春道

糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 貫之

燈火

糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 菅三品
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 業平

糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 菅三品
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯
 業平

糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯の糸帯

筆のてき多き本流は所々後上は亦
感謝先後の徳に世を

馬子物ぶおおし給ふも毎年晩後おき
昔三品

君はに似おもす給ふは初若き高解人
紀辨言

君とさむと神をめぐりてはどけはたれん
よみ

留

流入海をとりて是を海難に思ふは度云
謝観

浪河海流玉ふる界梅原花子一了林白

毛ぶ敷礼人彼語を立流佃金

お通にふきこめ給ふ物に毛布も時紀辨言
むすね給ふは

お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製

お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製
お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製

お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製
お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製

お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製
お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製

お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製
お通にふき給ふ物に思ふ給ふは人型印製

水月書水

友則

是則

此書... 菅
相如
七奈后宮

長也

此書... 菅
相規
惟心

菅
菅

又... 貫之

仙名

一... 貫之
菅相
兼盛
全
貫之

